

ある親子連れの患者。診察室に入ってくる。私「どうしたの？どこが悪いの？」子供、きょとんとして黙っている。もぞもぞ…。母親の顔をみる。母親「何を黙っているの、先生にどうしてきたのか言わなくては」または（大部分の母親はそうなのだが）、「お腹を痛がっているんです。」

「そうですか、ところでいつから痛い？」と私。また、一瞬の沈黙。自分でどこが悪くてどうなのか言わなくては、先生は困ってしまうよ。君はいくつなの？声は出るんでしょ。」子供、もぐもぐ。私「何か言っただらな。」子供「痛い」私「どこが？」子供「腹が」私「いつから？」子供「昨日」私「どんな痛み？」子供、もぐもぐ、黙ってしまう。私「ちくちくとかドーンと痛いとか色々あるでしょう。一体どんな痛み？」子供、困ったような表情をしている。

私、ついに耐えかねて、「君、禅問答をしているんじゃないよ。日本語をしゃべれるんでしょ。いつどこでどうなってどうしたと物語としてお話しなくては先生は何も分からないよ。困ったから病院へきたんでしょ。」

母親の顔をみる。母親、ついに耐えかねて横から話をしだす。又は、本人が仕方なさそうにポツポツと話し出す。（こうなってくれとうれしいのだが）。

こんな外来での会話が時に行われます。皆さんどう思いますか？来院した時から、「先生おはようございます。いついつからどんな時にどんな症状が出て、診察を受けにきました。よろしく願いたいします。」と言う子供は、なんと賢い子供だろうかと思ってしまう。こんな会話は当然のことであるはずなのだが。どうしてなのだろう。子供同士、親同士そして親と子供の会話がなくなってしまったせいかもしれない。結婚すると、男は妻に向かって、あれ、寝る、風呂に入る、腹減った、新聞取ってなどと必要最低限のことしか言わなくなってしまう。なんとも味気無く、会話をしているとはとてもいえない。

世の中が便利になり、買い物をして自販機から定型文の言葉しか流れてこない。ファミリーレストランでは丁寧な言葉づかいで注文や挨拶の言葉が発せられるが、マニュアルに従ったお決まりの言葉しか出てこない。コンピューターは問い掛ければ必要なことだけ回答をしてくれる。言葉を話さなくてもお金をせばなんでも手に入るなどなど、最近の世の中で言葉の必要性がなくなってしまったせいなのだろうか。

病院の外来はドラマであり、生き物である。その人の話し方、訴え方、話の内容などにより、大体の病気の診断はつくのであり、会話の中から患者さんと医者をつながりが生じるのである。

病院に来るこんな子供を見ていると一体日本はどうなってしまうのかしらと心配するのは私だけだろうか？小さな子供たちが自分の意見がいえるように、会話をぜひ大切にしてほしいものである。（山下病院 院長）

お知らせ

愛知宅老連 フォーラム

と き・平成十三年十二月九日（日）
十時三十分～十六時
ところ・ウイールあいち四階ウイールホール
名古屋上野橋一 名古屋警察署
テーマ・痴呆にどう応えるか、宅老所
参加費・前売二千五百円、当日三千円
問い合わせ・あいち宅老連絡会事務局
FAX・052-482-3746
プログラム
・講演一（十時三十分～十二時）
「二十一世紀の痴呆介護」
遠藤 英俊氏（中部内院科医長）
・講演二（十三時～十四時）
「呆け老人と関わり学入門」
三好 春樹氏（清和大学研究員）

・パネルディスカッション
宅老所が実際に行っている痴呆高齢者へのアプローチの実際の報告と、今後の展開をテーマにディスカッション（十四時～十六時）
パネラー 平野隆之氏（早稲田大学）他
「まごころ」でも受け付けます

一宮市からの委託を受けて 痴呆予防講座を行います

「施設見学と映画と勉強会」

13年度2回目の講座・痴呆予防講座開催
痴呆予防については、大変難しいものがあるといわれていますが、痴呆について正しく知ることが先ず必要です。
痴呆とは・痴呆になったら・どう対応が必要なのか・施設をとおして／事例（ドキュメンタリー映画）をとおして／専門医をとおして／あらゆる角度から学びます。

◆1日目
日時・平成13年11月16日（金）
9時～15時30分
行先・長久手「あいちたいようの杜」
一宮市「萩の里」

◆2日目
日時・平成13年11月17日（土）
10時～15時30分
午前 映画・おてんとうさまがほしい
午後 講義・痴呆を考える
講師 河野和彦先生
（海南病院老年科医師）

場所・愛知県一宮勤労福祉会館研修室
◆参加費・無料
◆申込・市高年福祉課又「まごころ」

介護保険 一宮市サービス事業者連絡会発足

去る十月十五日、かねてから検討されていた一宮市内の介護保険サービス事業者の連絡会が発足し、第一回の総会が開催されました。
この連絡会は、訪問介護、訪問看護、通所サービス、施設サービスの各種の介護保険サービス事業者が参加する組織です。この会の目的は介護保険事業者間の連携をはかり、業務の専門性の研究・協議及び実践により、利用者が安心してサービスを受け満足できるよう、また、介護保険制度と地域福祉の向上を図ることを目的として作られました。
当会も趣旨に賛同、早速入会をしました。
利用者さん、事業所、ワーカーさんにとっても、連絡会が適切な情報源となることで、よりよいサービスにつながると思います。
これから、まだまだ紆余曲折の多い介護保険制度、連絡会の役割は大きなものと期待します。



福祉とボランティア活動展終了

会場にて会員さんに2名登録
去る、10月20～21日にスポーツ文化センターでボランティア展が開催されました。恒例の当会ミニデイサービスコーナーにも多くの皆様が立ち寄り、利用者の皆さんの作品やミニデイの様子を撮った写真を熱心に見て下さった。会への質問いただき、こういう会を探していたと、2人が会員に登録されるなど、高い関心を寄せて下さいました。また、リズムでリハビリ用の楽器は子供達に人気、小学生や幼稚園児が終日会場を楽しくしてくれたり、お年寄りも交えて賑やかな交流の2日間でした。

1 1月の予定

- 1日（木）会報「まごころ」発行
ミニデイサービス（場所・保福園）
一宮ボランティア 宮田、大橋
- 4日（日）定例会
- 5日（月）一宮ボランティア 岩田、岩本
- 8日（木）ミニデイサービス（場所・事務所）
一宮ボランティア 石原、牧野
運営委員会
- 10日（土）まごころバザー さまよう会館
- 11日（日）まごころふれあいバザー（場所・事務所）
- 12日（月）コーディネーター会議
一宮ボランティア 平子、鈴木
- 13日（火）ミニデイサービス（場所・事務所）
- 14日（水）ミニデイ委員会
- 15日（木）ミニデイサービス（場所・保福園）
一宮ボランティア 橋、古田
- 16日（金）市委託痴呆予防講座 施設見学
- 17日（土）まごころ公開講座 映画・講演
- 18日（日）一宮寮開寮祭
宅老連勉強会
アウン文化祭
- 19日（月）NPO法人代表者会議
一宮ボランティア 谷、小林曾
- 22日（木）ミニデイサービス、ミニデイ促会、（場所・事務所）
一宮ボランティア 飯田、田中
- 26日（月）コーディネーター会議
一宮ボランティア 岩田、田中、山田
- 28日（水）ミニデイ委員会
- 29日（木）ミニデイサービス（場所・保福園）
一宮ボランティア 飯田、橋
理事会

9月介護保険訪問活動	
訪問件数	55件
家事	411時間
複合型	326時間
身体	245時間
合計	982時間

9月有償活動	
在宅活動件数	24件
活動人数	19人
活動時間	168時間
ミニデイサービス利用者	57人
移送サービス利用者	58件

9月会員登録状況	
協力会員	43人
利用会員	62人
賛助会員	112人
計	217人

12月の定例会は
12月2日（日）
◆野外定例会 11時30分～14時
この日の午前のケアはお休みです
利用者さんよろしくお願ひ致します